

(仮称) 青南 R E R ガス化溶融炉増設事業に係る環境影響評価
方法書に対する環境の保全の見地からの意見

- 1 対象事業実施区域に近接した既存焼却施設との累積的な環境影響が考えられることから、既存焼却施設の稼働計画等を明らかにした上で、累積的な環境影響が考えられる環境評価項目について適切に予測及び評価すること。
- 2 対象事業実施区域は、高い崖に囲まれており、周辺には土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている区域が多いことから、土地の造成に伴う事業実施区域の土地の安定性を十分に検討し、その結果を環境影響評価準備書に記載すること。
- 3 工事中における車両の洗浄水は適正に処理する必要があることから、車両の洗浄方法、排水経路、処理方法等について環境影響評価準備書において明らかにするとともに、必要に応じて水質等に係る環境影響評価項目や調査手法を見直すこと。
- 4 仮設沈砂池の処理能力等を明らかにした上で、工事中の降水・融雪による新たな環境影響が想定される場合には、環境影響評価項目（水底の底質の追加）並びに調査、予測及び評価の手法を必要に応じて見直し、その結果を環境影響評価準備書に記載すること。
- 5 供用時における地下水が環境影響評価項目として選定されていないが、約220 m³/日の揚水計画であるため、地下水の水位に影響を及ぼすおそれがあることから、供用時の地下水を環境影響評価項目として選定すること。
- 6 対象事業実施区域周辺では自然由来の砒素による土壤汚染が確認されていることから、対象事業実施区域における土壤の汚染状況について調査すること。また、その結果を踏まえ、必要に応じて大気質（粉じん）、水質、水底の底質、土壤（土壤汚染）、副産物（残土）を工事の実施に係る環境評価項目に選定すること。
- 7 廃棄物処理施設生活環境影響調査指針（平成18年環境省）では、窒素酸化物及び一酸化窒素についても把握した上で、二酸化窒素を予測・評価することとしていることから、これらの項目も大気質の調査項目に追加すること。

8 施設設置予定場所周辺は、高い崖に囲まれた特殊な地形であることから、施設配置を決定する際には、特に崖上の施設に近接する残置森林等に排ガス等の影響が及ばないように配慮するとともに、周辺の崖上に生育する植物についても、適切に調査、予測及び評価を行うこと。

また、大気質の予測を行う際には、特殊な地形を考慮すること。

9 南東の改変区域付近には住居等が存在しているため、工事中における建設機械の稼働に伴う大気質、騒音及び振動への影響や、土地の造成・樹木の伐採等に伴う大気質への影響が考えられることから、これらを環境影響評価項目に追加すること。

また、供用後の廃棄物の処理に伴う騒音及び振動による影響も考えられることから、発生源設備の建物に講ずることとしている遮音措置等及びそれらの効果を具体的に示した上で、必要に応じて環境影響評価項目への追加を検討すること。

10 動植物の調査に当たっては、最新の資料を調査することとしているが、動植物の生息・生育状況及び注目すべき種の選定に当たっての文献調査において、最新の知見が反映されていないことから、環境影響評価準備書を作成する際には、最新の知見に基づき分類し、調査を行うこと。

11 陸生動物の調査において、希少種の繁殖期に当該種が確認された場合は、対象事業実施区域が繁殖地となっている可能性があることから、繁殖状況を適切に調査し、繁殖が確認された場合には、適切な手法により予測及び評価を行い、その結果を環境影響評価準備書に記載すること。